

2010年(平成22年)

5月22日

土曜日



機械科3年A組 仁平菜月 新聞掲載記事。

「溶接女子」の技、最優秀賞

下館工業高3年 仁平菜月さん



ぴーぷる

「えっという気持ち。夢のような感じだった」

筑西市の下館工業高機械科3年の仁平菜月さん(17)は、写真真左は、最優秀賞に輝いた瞬間を振り返る。

先月下旬、東京であった「第1回関東甲信越高校生溶接コンクール」で、22人の頂点に立った。

中学生の時に出場したロボットコンテストの県大会。技能五輪に出たことのある選手が旋盤を演じた。その熟練された技に「機械をやってみたい」と同高へ。機械科23

8人のうち女子は2人しかいなかった。

溶接は1年の授業で12時間受けただけだが、3年生の中里直樹さん(18)は同右とともにも県溶接協会から選手に推薦された。

専門学校の先生、企業の技術者からも指導を受けた。2人で励まし合い、休日も春休みも返上で特訓を重ねた。

「他県のレベルが分からず最後まで不安だった」。結果は、均一で美しい溶接が評価され、100点満点で99点を獲得する完璧な内容だった。

「練習では中里の方がよかった」と機械科の先生は話す。その中里さんは「開会式

直後で緊張した」。惜しくも入賞を逃したが、「茨城が1位になり満足」という。

「日本代表となって技能五輪に出場したい」。仁平さんの次なる夢だ。(金森定博)